

年間第三十二主日

2017.11.12

マタイ 25・1-13

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高神父

今日の福音は、イエスが語られた天の国のたとえ話の中の十人の乙女たちの物語です。今日の福音も、イエスが語られたほかのたとえ話と同じように、それを聴くわたしたちの受け止め方に委ねられた、豊かな内容を持ったイエスのみことばです。けれども、わたしたちが今年の年間主日ごとに耳を傾けてきたマタイ福音書においては、今日の福音の十人のおとめのたとえ話は、この世の終末を語る一連のイエスのおことばの中に響いています。今年の年間主日の終

わりに当たって、わたしたちはわたしたちのこの世の生の終末を語るイエスのおことばに耳を傾けているのです。それにあわせるように、十一月の死者の月の年間第三十二主日のミサの中であらためて耳を傾けた、十人の乙女たちのたとえ話は、わたしたちがこの世の生の中で受け止めたわたしたちの信仰がわたしたちに示している永遠のいのちの世界へと、わたしたちの心に向けさせるのです。

今日聴いた十人の乙女たちの物語の中で、わたしたちに不審な思いを起こさせるのは、何故、予備の油まで用意していた乙女たちが、油の切れてしまった乙女たちに分けてあげようとしなかったのかということです。それにもまして、油を買って戻って来た乙女たちに対して、婚宴の家の主人は、何故あのような無情な言葉をもって彼女たちを婚宴の席から締め出してしまったのかということです。イエスは、このたとえ話をもって、わたしたちにどのようなことを警告しておられるのでしょうか。

わたしたちがカトリック信者となることによって、わたしたちのうちに灯された信仰の灯火は、もしそれがこの世の生を生きるわたしたちの中で消えてしまうようなことがあれば、そのことによって、わたしたちが信仰のうちに見出したはずのことは全て闇に覆われて消えてしまいますのです。わたしが信じたはずのイエスがともにいてくださる信仰の世界は、わたしにとって意味のない世界になってしまうのです。

わたし自身が、信仰の光の世界のありがたさを本当に受け止めていない限り、誰もわたしに代わってその光の世界を生きることは出来ないのです。わたしたちにとって信仰とはそのようなものです。わたしの人生を私以外の誰かが代わって生きることが出来ないように、わたしの信仰も、わたし自身がそれを生

きていないなら、わたしにとっては無意味なものになってしまうのです。それとともに、わたしが見出したはずの信仰の世界はわたしにとっては意味のないものになってしまうのです。そのようなことにならないようにと、わたしたちに信仰の光の恵みを与え、そのいのちの世界へとわたしたちを招き入れてくださった、わたしたちが信じるイエス・キリストは、今日のみことばによってわたしたちを諭しておられるのです。わたしたちとともにいてくださるイエスは、この世の生を生きるわたしたちが信仰のともし火を消すことなく生きることの困難さを知っていてくださるからです。

わたしたちがこの世の生の中で、信仰のともし火を消すことなくカトリック信者として生きることが出来るためには、信仰の光の世界のすばらしさをわたしたちがこの世の生の中で味わうことが必要です。カトリック信者であるわたしたちにとってミサはそのためにあるのです。

わたしたちはこのミサにおいて、わたしたちがその一員となったカトリック教会が伝えてきた信仰によって、わたしたちのために十字架につけられて死んだイエス、しかし死者の中から復活されたイエス・キリストの記念の祭りを祝い、今もそのようにして、このミサの中にわたしたちとともにいてくださる復活のイエス・キリストとともにこのミサをささげているのです。このミサにおいてわたしたちは、わたしたちが信じる神の子、わたしたちの救い主イエス・キリストがわたしたちのために十字架つけられ、そうすることによってわたしたちに与えてくださった復活のいのちをこの身にいただいているのです。

わたしたちはこの世の生を生きる中で、カトリック教会に伝えられてきたこのような信仰を受け入れることによって、その信仰を生きる者たちとされたのです。そしてその信仰は、わたしたちのこの世の生の中では、わたしたちのうちに灯された灯火の光のようです。その信仰の光の中で、わたしたちはわたしたちのこの世の生が、復活のイエスがわたしたちを招いてくださる、全てのいのちの源である父なる神のもとでの永遠のいのちに繋がるものであることを知ったのです。

わたしたちのこの世の生は、皆等しく死をもって終わります。けれども、わたしたちの中に灯された信仰の光は、そのようにして終わるわたしたちの生が、イエス・キリストの復活のいのちに結ばれることによって、わたしたちのいのちの源である父なる神の永遠のいのちを目指すものであることを照らし出しているのです。

わたしたちのミサの中に今日もともにいてくださるイエス・キリストは十字架の死を越えて復活され、永遠のいのちそのものである父なる神のみもとにお

られるイエス・キリストです。そのイエスは、今やその永遠のいのちの中に迎え入れられた全ての死者たちとともに、このミサにおいてわたしたちとともにいてくださるのです。このミサにおいてわたしたちは、今やイエス・キリストとともに、父なる神の永遠のいのちの喜びの宴の中に招き入れられた人々ともに、言い尽くせない感謝のうちに感謝の祭りとしてのこのミサを捧げているのです。

わたしたちが受け入れた信仰の世界を照らし出すわたしたちの信仰の灯火が、この世の生の歩みの中で消えてしまうことのないように、今や、その信仰を生き抜いて、神のみもとでの永遠のいのちの喜びに迎え入れられた方々のことを想って、その取次ぎを願って、このミサをささげたいと思います。